

幼 兒 教 育 研 究 雜 誌

母 子 と 女 婿



第 九 卷 第 十 號

目 次

- 十七字詩 榎野奇零
- 家庭問題の眼目 下田次郎
- 十年前後の女子は男子の様に育てる 醫學士 河島右一
- 飛んだお客様 如柳子
- 徳育に就いて 樂天子
- 小兒に玩具を持たせぬ主義に就いて 湘陽生
- 幼稚園問題に就きて 藤田東洋
- 幼稚園出身兒の成績に關する調査に就いて 和田實
- 美貌に就いて S U 生
- 此頃のお料理 石井福子
- 配布玩具の説明 記胤昭
- 家庭と育兒 原昭

フ レ ー ベ ル 會 社 發 行

常會廣告

來る九日(第二土曜)午後一時半より東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て本會第四五回常會開會致し候に付御繰合御出席下され度候

十月五日

フレールベル會

本會役員

主會幹長 池田 秀治
 庶會幹事 黒田 定夫
 庶會幹事 井田 關村
 庶會幹事 武井 關村
 庶會幹事 藤井 關村
 庶會幹事 福井 關村
 庶會幹事 雨田 關村
 庶會幹事 編者 關村
 編輯主任 關村

高池田 黒田 嶺
 小井田 關村 定夫
 大井田 關村 秀治
 武井田 關村 實
 藤井田 關村 實
 福井田 關村 實
 雨田 關村 實
 編者 關村 實

質問規定

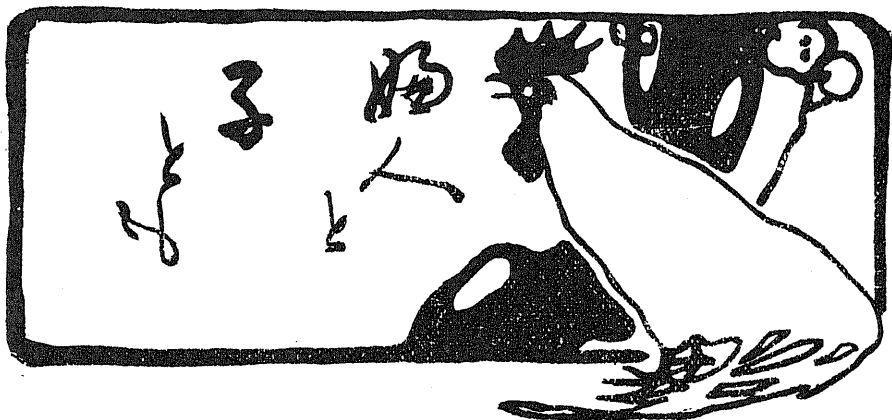
本會は讀者の種々なる質問に應じます婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は返信料封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

入會又ハ購讀手續

(振替口座東京 一七二六六番)

本會に御入會なさらうとする方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ年分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に登録して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は此の割合の前金で本會か又は賣捌書店へ御便宜御申下下さい

- ◎一冊郵税共金拾一錢
- ◎六冊前金郵税共六拾錢
- ◎拾二冊同金壹圓貳拾錢
- ◎郵券代用一割増



第九卷第十號

十七字詩

月つきのあ米まいのあ雨あめのあ戻もどりの船ふねにの酒さけものさめめ
 新あたら米まいのあ雨あめのあ戻もどりの船ふねにの酒さけものさめめ
 永とこ米まいのあ雨あめのあ戻もどりの船ふねにの酒さけものさめめ
 床とこのあ問とにの御ご覧らんのあ音ねのあ村むら静しずか
 横よこ町まちにの空あか家か探たんしての秋あきのあ雨あめ
 村むら十じゅう戸こ時とき雨あめのあ葉はやの蔓ま珠たま沙さ華な
 藪やぶ蔭かげにの葉はのあ蔓ま珠たま沙さ華な
 大おほ門かどにの夜よ寒さむのあ車くるま夫おとこのあ話はなしか
 月つきもの雨あめのあ雁かり今いま宵よるか
 秋あき雨あめのあ雁かり今いま宵よるか
 奥おく殿だんにの歌うた召めされけり十じゅう三さん夜よ
 佛ぶつ壇だんにの鼠ねずみなきよる夜よ寒さむか
 永とこ夜よのあ行ゆき燈あかりくらの針はり仕し事こと
 夕ゆふ小こ雨こ雨こ頭あたま枯かれての仕し無なけり
 一ひとつ家いえのあ壁かべもの月つきやのきりんくす
 道みち間まへば若わかきの女め房ぼうやの小こ夜よ粘ね
 伊い丹たん一ひとつ盞さん納なん戸とにの味あじ噌そうをの探たんりたる
 新あたら酒さけのあ一ひとつ盞さん納なん戸とにの味あじ噌そうをの探たんりたる
 よよきの人ひとのあ袖そでをのみしけり秋あき日ひ和なむ
 菊きくのあ残のこすの蓋かきのあ實み赤あかしの秋あき日ひ和なむ
 山やま路ぢ來きての小こさき花はなやの秋あきのあ蝶てつ
 菊きくのあ残のこすの蓋かきのあ實み赤あかしの秋あき日ひ和なむ

鹽野奇零

家庭問題の眼目

文學士 下田 次郎

▲社會の單位は家族 昔は社會のもとには個人であると云つて居たが、今日は社會の本となり基礎となるものは家族だと云ふ様になつた。社會の最も小さいものは個人ではなくて家族である。社會と個人、社會と家族は、後者の方が餘程よく似て居る、つまり家族が單位になつて社會が出来たのである。故に社會を發達させやうとするには、家族制度即ち家庭の發達を謀らねばならぬ。近來家庭が追々崩れて來たが、獨居獨身主義は最も忌むべきことで、甚だ悪い傾向だと思ふ。

▲家庭離散 世が文明に進めば進むほど交通機關はますます整頓して來るから、家庭の各員は離れ／＼になる傾向がある。父は九州に居り、兄は横須賀に居り、残りの家族のみ東京に居ると云ふ例は幾らもある、斯くの如く家族が離れ／＼になつて居ると、家族間相互の情愛が薄くなるのは云ふまでもない、家族の味ひを能く知らない子供は、

甚だ不幸なものであつて、父母と遠く離れて育つた子供は、恒久心の乏しいものが多い、斯様な子供が、血の冷かな情の薄い人間となるのは已むを得ないことである。昔の家庭は、常に一所に集まつて定住して居たが、今日の家庭は全然之にあやかる事が出来ぬまでも、成るべく昔のやうに一所に住むやうにしたいと思ふ。

▲故郷の印象 出來得るだけ、子供をして家庭を懐かしむる様にしたい。母の胎内から生れた子供は、家庭を以て第二の胎内と思はせるやうにした。故郷を慕ふ印象は人間に最も必要な要素である。井戸端の南天の樹、村はづれの小森など、子供の時の印象は終生忘れられぬと共に、其人の一生に偉大な感化を與へるものである。此點に於て最も都合の悪いのは都會生活である都會の子供は、少しも生れ故郷に對する愛慕の心がない。其の結果、田舎の子供は重々しいが、都會の子供は輕佻である。子供に故郷の印象を深くさせ、家庭は彼等の本執であると思ふべき點である。父母に此用意がなくて

は、國民教育も學校ばかりで成績を擧げることは出來ない。

▲家庭を持つ幸ひ 人々が結婚するを見るとき、どんな暮らしをし、どんな子供を設け、どんな家庭を作らうと、初めに於て心を用ふるものが少ない。夫婦の間には是非とも子供が必要である。子供は父母の命を延ばし、活動の元氣を與へる。常に勞務に在るものが、家庭に在つて子供を相手にし、之が爲めに享くる樂しみは何れだけか知れぬ。又人の働くのは一は國の爲めといふ點もあるが、多くは子供の爲め、又は家を支へる爲めに働くものである。人間は家を持つと義務心が出来るが、家を持たないものは義務心がないから、全力を注いで働くこと云ふことをしない。つまり男子の家庭を持つことは、其の一身の爲め、社會の爲め大なる幸福である。

▲家庭問題の眼目 だん／＼家庭が崩れ、獨心者の多くなるのは、決して喜ぶべき現象ではなくて國家の大なる呪ひ大なる不幸である。家庭を維持するの必要と子供を育てるの必要とは、當今の家

庭問題の中で、最も先に論じ最も注意を要する大問題である。最早や西洋では餘ほど家庭が崩れて居るが、我國はまだそれ程でもない。故に我國民は、斯かる逆潮に對して大に抵抗し大に闘つて、家庭を維持せねばならぬ。

セームス、サウエル氏家庭衛生訓

- 一、一日の中八時間は睡眠に費すべし
- 二、眠る時は右側を下にすべし
- 三、終夜寢室の窓戸を開き置くべし
- 四、寢室の戸の正面には屏風を立つべし
- 五、寢室は壁より離れしむべし
- 六、毎朝體温と同温の水にて沐浴すべし
- 七、朝食前に運動を取るべし
- 八、よく煮たる少量の食物を攝取すべし
- 九、病氣の媒菌を消滅せしむる細胞を養ふ爲めに適當なる脂肪を食すべし
- 十、興奮物を用ふる勿れ、之れ前記の諸細胞を害するものなればなり
- 十一、毎日戶外運動を爲すべし
- 十二、犬猫其他の動物を室内に同居せしむべからず、此等は疾病微菌を傳へ易きものなればなり
- 十三、成るべく田舎に住むべし
- 十四、飲料水濕地下水等に注意すべし
- 十五、適宜に仕事を變ずべし
- 十六、適宜に休日設くべし
- 十七、功名心を制限すべし
- 十八、常に精神の劇動を避けよ

十年前後の女子は 男子の様に育てる

醫學士 河島 右一

女子は男子よりも早熟

子供が學齡に達しますと教育の仕方とも一變して六ヶ敷なりませんが、分けても十歳前後に於ける女子の教育は家庭に於て母親の注意が最も必要であります。一體、男子と女子とは既に體格の上著しい違があつて知能の發育から云つても女子は男子と比較して早熟でありますが、獨り智能の發育ばかりでなく、女子の體格は生理上男子よりも早く發育するもので、等しく十歳前後の男女を比較して見ても容易く之を知ることが出來ませう、又女子が十歳前後に達したら腰部の周圍を冷えぬ様にさせますが男兒には格別夫れ程の注意を要しませんのも、女子と男子とは生理上體格の異なる點があるからです。

寧ろお轉婆の方が賛成
十歳前後の女子教育に就いて大切なる母親の注

意は何であるかと云ふに、夫れは成可く女らしくさせぬと云ふ事です、例へば頭髮の結び方から着物の縞柄其他お化粧等の事に至る迄、餘り美しく派手に飾らせないやうにするのです、世間多くの母親が娘に對する嫉方を見ますと、成可く美麗にお装りをさせる事に苦心して居るやうです、之れは母の情として尤もなことではあります但し夫れには適當なる時期があつて、其の時期よりも早からず、又晩からざるやうに注意します事が母親の大事な責任であります。

故に十歳前後の女子の華美に飾ると云ふ事よりも、寧ろ男兒と一緒に活潑な運動でもして男兒を凌駕する位の活氣を持つて居て貰ひたい、斯ういふ快活なる女子を俗にお轉婆と申しますが、此時代ののお轉婆は教育上賛成すべき事で、之れを嗜める方が却つて誤解して居るやうかと思ひます。

華美かな和服よりも質素な洋服

夫れですから十歳前後の女子には平生成可く洋服を着せて置く事が必要と考へます、洋服ですと和服のやうに縞柄や色合が華やかでなく質素な切

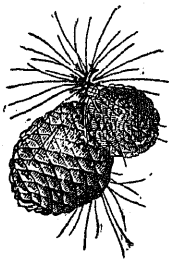
地を用ゐるのが普通である殊に邪魔な袖はなし裾も短く和服を着たよりも自ら舉動が活潑になるから何うしても女らしい事をして居られないやうになります、且つ又女子の洋服は和服よりも極めて低廉であるし、洗濯して常に清潔にさへして置けば、和服の如く幾組も作らずとも平常着の儘で大抵な場所へは往かれますから、此點から云つても至極經濟になります。

斯様に男らしく装らせて置けば、何うしても早く女になりませんが、十三四歳頃までは矯羞の念もなく常に男兒のやうな心持で居ります。

女子一代の不幸

十三四歳の頃まで女らしくならぬやうに母親が注意しますと、結局月經の順序が正しくなりません、日本の女子は十六歳四ヶ月の頃に月經を見ますのが生理上の規定になつて居ます、處が十歳前後の頃から華かにお飾などをせますと自ら春を知る事が早く、中には十三歳頃より既に月經を見る者さへある程です、之れは女子の一生に取つて生理上餘り宜しくない事です。

若し十六歳以後になつて、始めて月經を見ますやうなら、其の間に怠らず學問を厲み、一意専心他を顧みずに技藝を研ぐ事が出来、處が若しも月經が早いと自ら性慾の念に驅られて、女子一代の技藝ですらも充分に研修することも出来ず、遂には結婚の時期を早めるやうになります、之れは女子に取つて決して幸福とは申されませんが、生理上から見ても順潮とは申されませんが、故に女子の月經を規則正しく順潮ならしむるには、十歳前後に於ける母親の注意が最も大切で此時代の女子教育は決して等閑にする事は出来ないのです。



飛んだお客様

如 柳 子

○今年六十日の暑中休暇には、僕は一度も外出の出来ぬほどに、飛んだお客様に舞ひ込まれた、人は富士登山の避暑旅行のし浮かれて居る最中に、只の一度も外へ出られぬ程の厄介なお客様に見舞はれたのは、近年稀な暑氣と同じ様に十年以來、否生て以來こんな難儀な暑中休暇は始めてゐる。

○さて其のお客様は海の者でも山の者でもない、人間世界、殊に子供の世界に恐るべきお客様なのであるから、結局本誌の餘白で、諸君にお紹介をすることになつたのである。さて、飛んだお客様とは一體誰方であるか。早速白状すれば實は百日咳といふお客様である。

○何事も自分で経験しなければ本統のことは分らぬもので、ヤレ「輕かつた」の、ヤレ「重かつた」の「苦しかつた」「辛かつた」と聞いても、聞いた丈けでは、如何も眞想が得られない。随つて同情も起り難い、否場合によつては「ハア左様ですか

と聞き流したこともあつた。

六

○さて迂濶には出来ぬもの、昨日は人の身、今日は我が身。百日咳の好きな三歳から五歳の子供は勿論七歳九歳といふ、お規則通りの、然も男兒がゾロリと首を揃へて待つて居るのだから溜らない。御免とも何とも言はず這入て來たのである。

○併し全然出抜けといふ譯ではない。實は僕の家は隣が畫工で、向ひは琴の師匠、習字の先生と、此の四軒が一劃をなして居る高尚で閑靜なところで、俗人は僕の家のみであるが、百日咳も俗人は嫌いに見えて、先づ第一に畫工の息子の十歳になつたのと、六歳、八歳の女兒とを苦しめたのである。

中々年齢丈けに六歳の女兒が苦しかつた様であるが、百日咳は次に琴の師匠の家に舞ひ込み、三歳の男兒、五歳の女兒二人を生捕り、比較的三歳の男兒が難儀をした。三回目には習字先生の所へやつて來て、これ又三歳と六歳の女兒を倒した。但し此處には十歳以上の女兒二人居るのだが、百日咳先生是には手を出さぬ。よい案排に僕の家のみは天幸で杯と澄まして居つたが、魚鱗櫛比の都の家

屋、終に延焼して、最初に取り付かれたのが四男で五歳になるのである、時は六月中旬のことであつた。○サア斯様なつては父母たるもの、周障狼狽はない。といふのは元來迂濶に聞いた知識は何にもならないで、日に増し子供のせつなさ、僕等のせつなさが増して来るからで、子供に迷ふ親の闇、只一刻も早くお客様を逐ひ出す算段にばかり苦心するが、さて中々落付はらつて容易に腰をあげない、百日咳は實に執拗なものである。○取り付かれた順序は五歳から九歳、七歳、三歳といふので六月中旬から九月中旬まで正さに九十餘日、百日咳の名は誠に欺かない。併し時候により、年齢により、體質により、病質により軽重長短の差は免れない。僕の家では五歳が最も重體で肺炎の淵に瀕し、時期も勿論長い、次が三歳の一番遅くお見舞を受けたのが、殿軍として今でも時々ゲホ／＼苦んで居るのである。七歳のが一番軽く、一週間ばかりは苦しんだやうであるが其他は平生と變りはなかつた。○重いといふのは、熱の急劇な昇降、烈しき頭痛、

多量なる鼻血の出るなど、五歳の子は皆之を経験した。そして咳の爲めに飲食物など吐き、顔面膨れて平生の顔に見えないのは、四人ながら同一轍である。それから咳の烈しいのは一時間に三四回、一回の長さは十分間位に達するものもあるが、僕の子供は度数は一時間二回、一回三分間位が烈しい極度であつた。○前後九十日此等の小兒の苦しみを滅せしめやうと苦心した結果は、百日咳に就て少なからず知識を得たのであるが、廣い世界には僕等より經驗の積んだ方もあらふから、僕の白狀に次で、是非本誌に紹介して貰ひたいものである。○百日咳といふお客様の滞在中おかしと思ふことがあつた、それは古來の迷信である。迷信も場合によつては馬鹿に出来ぬと思つたので、又親切に致へて呉れるものを笑ひ流す譯にも行かぬので耳に止まつたのは次の二種である。○ニンニクは葱に似た、臭い野菜である。支那人臺灣人などは常食にするものが多いが、我々は勿論食物にはしない、ニンニクを甘露煮にして食べ

させるは百日咳を治するに効驗があるといふので、早速八百屋に頼んで捜して貰ふて甘露煮を拵へた。中にはニンニクの薫りがよいとて古來軒に吊るしたものだからといふものもあるもので、一部分は南の椽側に吊つたのが、今にも残つて居る。さて甘露煮の法はといふと、先づ僕が試みに一ト箸口にしてから子供に食べさせたのであるが、僕已に一ト箸でギヤフンとまいつたので、これではと危ぶんだが、いやな顔を見せず、勧めて食べさせやうとした。ところが其の形を見たばかりで、子供は一ト箸も口にしない、九歳のが物好きに一ト箸舐めたが忽ち鼻を摘んで仕舞つた、冷えたら如何かと思つて冷やして、勧めた、矢張り見向きもしない。壓制して押し込むのも可愛相であるから、終に其の儘、一週間も経つてから、植木の肥糞をやつて仕舞つた。

○次のは聞いたばかりで實行はしない。それは大弓場の矢の黒羽を黒焼にして飲むといふことである。これ百日咳が治するものであらば、それ程得難い薬ではないが、さてこれはさうも感じられ

ないで、失敬ながら聞き流しになつた。

○兎に角百日咳は生命には關係しないが、非常に長いといふことは、隣に患者の生じた場合に耳にしたところである。日に二十錢づゝ薬を飲ましたところ、百日といへば二十圓かゝる、四人の患者があれば八十圓はかゝる。そこで露骨にいへば、僕には八十圓の薬價が拂へぬ境遇であるから、サア患者が出来た直ぐにお醫者とは思ひ付かぬ。その罰か如何かは知らぬが、五歳の子供が約一ヶ月も過ぎて、咳も餘程少なくなつた時分、二三日烈しい頭痛が起つて、或日の午後俄に、體熱下降して、冷血となり全身蒼白色に變じ、

○呼吸促進意識朦朧、將に絶息せんとするのやうになつた刹那、八十圓が百圓でも到底醫者の手を取らさず居られなくなつて、周障て、醫者に來て貰ふ境遇となつたのである。醫者は肺炎に變せんとす、明日は病院に入れるべしとのことで、恐惶更に恐惶一日二十錢が二圓となれば百日二百圓四人とすれば八百圓を要することゝなる、ナント百日咳も馬鹿に出来ぬではないか、コンナお客様

には實に閉口である。

○ところが其の夜徹夜の看眼、頭は水、胸はアル
コホルの濕布といふ手敷を厭はぬ誠心を天も感應
されたものか、翌日は案外輕快、醫者もこれな
れば、入院を控へたがよからうとのこと、ヤン嬉
しやと、一胸撫で下したが、さて薬は御免ともい
へぬ、五歳のに薬は三通りも頂戴となれば、傳染
した、九歳も、七歳も、將た三歳もといふ順序で
とうとう四人共醫者のお厄介、主人公たる僕は寧
ろ泣きたくなる。

○それなれば醫者にかけるまでは薬は與へぬかと
いふに、随分検査に検査を重ねてベルツシンとい
ふ咳一切の外國薬を尋ねて、それを與へたのであ
る。此の薬は醫者も知らぬといふた、實は知つて
居るのかも知れぬが賣薬と同じものを與へたと
はれぬ爲めの豫防と見えてか、知らぬといふ、兎
に角知らぬとして、ことのそれ程、滅多にない、
東京にたつた一軒、麴町紀尾井町の齋藤といふ薬
舗にあるばかり、一々電車で買ひに行く、仕舞に
は薬屋の番頭さんと懇意になつて、伴れて往つた

子供に土産を呉れる様になつた。それも其の筈此
の薬は一瓶一圓四十五錢（一合二三勺入）といふ
高價の薬を五六遍も買ひに往つたのである、上等
のお客様なのであるからであると思ふ。

○ベルツシンはベルツシンと間違はぬやうにせね
ばならぬ。ベルツシンは咳一切の藥就中百日咳
に特效といふので、一日の極量、七八匙、甘味芳
香、子供には寧ろ好まれる藥である。如何も蜂蜜
が臺らしい。併しこれも或る場合には子供が嫌が
ることがある。その時はなんでも直ちに吐いて仕
舞ふので、此の時は一時は藥の中止時代とでもい
ふのであらふ。用ゐた經驗で咳には確かに有効で
あるが、百日咳に對しては掛々しいとは感じられ
ぬ、幾分かづ、輕減するには違ひないといふだけ
である。

○醫者のいふのに、百日咳には薬はない、薬を與
へて置きながら薬はないといふ。多分除熱薬や消
化薬でも當て、置くのであらふ。素人の考では注
射のやうなことをして一時でも苦痛を止めたとい
思ふが、藥同然療法もないとのことである。只肺

炎、氣管支カタル等の豫防に喉頭、胸部等に濕布（アルコホル最も好し）を捲き、吸入器を用ふる等のことは至極よいことである。これは實驗したところ確かであるが、吸入は、七歳、五歳までは如何にか届くが、三歳のはテナデ吸入器の側へも寄らぬ、分らぬから仕方がない。故に寝て居るときに工夫して吸入する様に仕掛けるが寝て居ては餘り効果がないといふことである。

○右の通り療法も薬もない、百日咳に限り如何して醫者は冷淡なのかしら、外國のは軽いのかしらなど、種々の疑が起つて、これを醫者に質した。醫者のいふには、外國とても百日咳が軽いといふ譯ではない。只其の病質が直接生命に關係がないから研究が届かない。又傳染性、不傳染性、微菌性、非微菌性等一向決まらぬのである。要するに輕重はあるが、麻疹、痘瘡等のやうに一定の経過時期のあるものであるから、其の間だけ持重して居るより外はないといふことになる。

○然らば其の持重するにはといふに、第一に營養の衰へぬやうにすること。即ち滋養になつて消化

のよいものを與へること。劇しく吐く時代には、流動物の方を用ゐること。腦に影響して鼻血の度々出る場合には頭を氷で冷やすこと。喉頭や胸に濕布を施すこと。室内を六十度以下の温度に降らぬやうすること。夏にても、決して理髮入浴等させぬこと。汗、垢等は局部を拭きつゝ取ること。肝癢を起させぬ様すること。間食には水飴、飴類を用ゐること等である。

○何病も快復の近くになつて油斷の出來ぬもので、殊に百日咳は後戻りし易い場合が多いから十分注意せねばならぬ。五歳の子供の長かつたのは確かに快復の近くに全身浴をせしめたからである。この點からいふと、殆ど寒胃患者と同様に心得ねばならぬ。

○さてそれから百日咳を煩つた影響であるが、或る人は健康になるといひ、或る人は弱くなる、殊に腦が悪くなるといふ。那方かといへば後者の説が多いやうである。今日のところ、僕の子供は腦の悪くなつたといふ徴候は確かに見える。それから一寸したことに咳をする、風邪などは、容

易く胃いされるやうに感かんじられてならぬ。併しかしこれから先まきでなくては確たしかなことはいはれぬ。それから再また患あやまつと一回いちど説せつである。一回いちど百日咳ひゃくじつせきに胃いされたものは再び胃いされないといふ、恰あたかも天然痘てんぜんとうと同じやうにいふ人もあるし、再度またも三度さんども胃いされ易やすいといふ説せつもある。この経験けいけんもこれから先まきのことである。

○普通ふつうに輕重けいちゆうの度は年長者ねんちやうしやが輕かろい。男女だんなぢよでは女兒ぢよじが輕かろいやうに思おもはれる。極ごくく輕かろきは一週間位いちしゅうかんぐわい百日咳ひゃくじつせきであつたか位ぐわいもある。何なにしろ僕ぼくのところのは五歳ごさいのが重おもくて、七八十日過ぎた今日こんにち切きりに音おん梁りやうの食物じよくを欲ほつする傾向けいかうが見みえる。確たしかに健康けんかうの快おほ復期ふくきに時ときつたのである。三歳さんさいのは今いまに朝夕てうせき、一二回いちにじつ、劇げつしく咳せきく、この方は發病後はつびんご四週間ししゅうかんである。

○百日咳ひゃくじつせきの看病かんびんは他人たにんにさせると云いふ俚言りげんも初耳はつみみである。蓋けだし實じつの父母ふぼは子供こどもが苦くるしく殘酷ざんこくの有様ありさまを堪たえ見みることが出來ぬためであらふ。以もつつて如何いかに困難こんなんな、厄介やくがいな、厭やくふべき病氣びやうきであるか、推おしし量りやうかられる。

○僕ぼくは右みぎの持重法ぢぢゆうほふの中うちにある肝癪かんしゃくを起おこして劇げつしく

咳せきの出でぬやうにとの條件てうけんに應おこずる爲ためめに、三歳さんさいの子供こどもの一番氣いちばんきに入いつた電車でんしゃ乗りのりを、殆ほとんんど三十日さんじゅうにち休やすみなしに行いつたのである。傳染でんせんするといふからに、他人たにんの子供こどもの家うちに来きることも禁かぎするが、勿論もちろん此方こゝから行く譯わけにも行いかぬ。それで電車でんしゃに乗のつて何處どこへ行くかといふに、殆ほとんんど行くところがない。外濠そとわらを一週いちしゅうして何處どこで降りおりるのですかと怪あやまれ、千住せんじゆうに向むかつては名倉なぐらでも往いくのですかと疑うたはれ、八九十度はちゅうじゅうどの炎天えんてんに電車でんしゃ納涼なつらうも洒落しやれてると冷ひややかす友ともがあれど、心配しんぱいな病兒びやうじをかへて、納涼なつらうどころか、何時いつも歸かへりは汗あせビツシヨリ、反對はんたいに冷ひややかになるは懷中くわいちゆうばかり、さて今年ことしは飛とんだ、お客きやく様に舞まひ込まれて、餘計よけいな知識ちしきを得えたことがあるよ。(完)

德育に就て

樂 天 子

教育けういくは智ち育いく德育とくいく體育たいいくの三さんつが全まふして、その効果かうかうを擧あげ完全ぜんぜんの人ひとになるのであるが、智ち育いくは段々だんだんに進すすむが、德育とくいくと體育たいいくは段々だんだんに衰おとろへる、志こころざしある人は

之を嘆きて體育も德育も進めやうと言つて種々の工夫をやつて居るが、兎角進まぬのみならず段々衰へる、是は今の中に挽回せねば、實に如何ともすべからざるに至るは明かである、體育は姑く措き德育の事を少し述べやう、今日世の教育に従事するものが、唯德育と云つてもいかぬ、徳は得と云ふ事にて、身に得たのでなければならぬ、唯知つたばかりではいかぬ、今日世の教育者たるべきもの果して悉く其徳を身に得たるものあるや否や私は之をよく知らぬ、若し身に得ぬ人があつて言行一致せぬものがあるとすれば何を以て德育の實行を得ることが出来るか、何を以て兒童の心に感せしむることが出来るか、人の心は靈妙なるものであつて、殊に子供は成人よりは妄念が少い故殊更靈妙なるものである、故に眞誠に身に得たるものに非れば、德育は眞に行届くものではない、故に人の師となるものは、至誠を以てするに非れば、子弟を感化せしむる事は決して出来ぬのである、苟くも至誠を以てすれば如何に致し方のない者でも屹度感化せしむることが出来るので

ある、夫はつまり人に靈妙の心のないものはないからである。

抑々智育德育體育は鼎足の如きものであつて其の一を缺けば世の中の役に立たぬものである、いくら智慧があつても徳がなければ、その智慧が悪い方にばかり働いて、却て世の中の害をなし、自らの害をなす、またどれ程智慧があり徳があつても身體が弱くてヨボヨボして居ては其智慧と徳とを用ゆることが出来ぬ、又徳があり身體が強くても餘り智慧がなくては仕様がな、故に鼎足の如きものである、然るに世の中の人には智育を一番貴んで、德育の如きは餘り必要とも思はぬものがある、夫はなせさういふ事を思ふかと云ふに、德育は心即ち精神上の事で無形である、無形のものは何と言つても有形ほど大事の様に思はぬ、智も無形であるけれども智は直ぐに其の效が物に現はる、から人が誰でも見ることが出来る、徳も直ぐに現はる、けれども徳のないものにはよく見えぬ、徳にも進取と退守があつて、進んで人のため世のため己の身を顧みず徳をなすが進取の道徳である、

唯一身を潔くして善き事もせぬが悪い事をせざる
 は退守の道徳に傾きて居る、西洋の道徳は進取の
 方に傾きて居る、實に世の中を見るにこの三育の
 揃ふた人は少い、假令三育とも短くても揃ふた方
 がよい、好し一方が長くても一方が缺けて居ては
 鼎が立たぬ、それでは少しも用をなさぬ、現に世
 の中を見ても分る、智慧があつても用ゐられぬの
 で貧乏して居る者もあり、徳があつても身體の利
 かぬ者があり、身體は立派でも馬鹿で用ゆる所の
 ない者がある、此れ皆三足の揃はぬので不具であ
 るからである、世の兒童教育に従事するもの智育
 のみを進めても役に立たぬ事を知らねばならぬ、
 世の中の人、智の効能は直ぐに己の身に適切
 に來ることを知る、けれども徳の効能は他人に行
 く様に思ふ、是れ思はざるの甚きものである、
 道徳の効能は一層も二層も大に我が身に報いて來
 るものである、彼のナポレオンも道徳の力は身體
 の方に十倍すと言つて居る、道徳の効能は適切に
 己の身に報いて來るものであることを眞に信する
 事の出來ぬ中は至誠の心が發せぬ、至誠の心が發

せぬ中は眞に兒童を感化せしむることが出來ぬ、
 故に人の師たるものは、至誠の心を發するといふ
 事が一番初めである、至誠といふ事は何事に就て
 も必要であるが、人の師となるものは己れ一身に
 止まらぬ、子弟の身にまで關係を及ぼす故殊に必
 要なのである、夫から先入主となると云ふ事があ
 つて、子供の心は淡泊純粹のものである、之に先
 入するものが必要であつて、若し先入其宜しきを
 誤れば實に其人を誤るものである、決して輕卒に
 思つて貰ふてはならぬ、之を思へば兒童の教育に
 當れるものゝその責任の重き事は實に山の如きも
 のである、然るに輕卒に心得る者あるは實に嘆す
 べきことである。

小兒に玩具を持たせぬ 主義に就いて

玩具に關する名家の説は家庭雜誌や新聞の上など

湘陽生

で屢眼にする所であるが最近の某家庭雑誌々上で某博士夫人の談話だとして次の様なことが出て居つた。記者は世の名家とか名流とか云はるゝ人々の説には常に感腹しないことが多いので多くは讀んだことがないけれど、是は自分の職掌に關係して居ることであるし、且つは其世を誤り人を過ることが多いだらうと思ふので、茲に一つ評論を加へて見やうと思ふ。其全文と云ふのは次の通りである。

小兒に玩具を持たせぬ主義

小兒にいろゝな玩具を持たせ遊ばせませうことは教育の上から申すと、爲めになりませう善いことやうにも承つて居ませうけれど、私共のやうに女中の手を借りず、子守一人置きませんで、七人と云ふ大勢の子供を、兩親の手一ツで育てて参りますには、銘々に珍らしい玩具などを持たせませうよりも、寧ろ玩具を持たせずに、温順に遊ばせませうが、小兒のためにも却へて善き教へとなりは致しませうまいかと心付きましたので、玩具は一切廢めさせて仕舞ひました。

玩具を持たせてきへ置きますと小兒にいつても機嫌よく一人で遊んで、誠に母親の手數も省けますやうに考へられます、成程小兒の氣に入りました玩具でと世語もやげませんで温順しく

して居ませうけれど、いつまでも一つの玩具ばかりでは承知致しませぬ、直きに厭きては何かほかの珍らしいのを欲しがります。爾う致しますと親の情として、また新しい異つた玩具を買つて與へます、小兒は珍らしがつて暫くの間は、又夫れでなければなりませんやうに機嫌よく遊びますから、その間親の手が離れますので、従つて家事向きの用も都合よく運びます。

私も初めて小兒を持ちましたときは、玩具を買つてやつて、成丈機嫌よく遊ばせませうといたしましたが、さて厭きました玩具は、最早振りむきもされないので、幾程新しく買つてやつても隙限が御座いままんでした、夫れに犬とか汽車とか喇叭とかか申すやうに、異つた品を持たせる間に、いつか品の良否を覺え離い玩具でと頭を振つて、なかく満足ないたしませぬものです。

此分で小兒に玩具を買立てられましたら、僅かのことのやうでは御座いますが、積つて見ますと玩具位といればませぬ價になつて居りまして、之れで何かほかの重寶な品を求めたらばと思ふ程になりました、又そればかりでは御座いませぬ、欲しがらからと云つて買つてやりませぬと、遂には小兒が粗末にいたしました、之れは教育の上から申しても小兒の不爲だらうと考へます。

御經驗に當んだお方のおはなしに、平常澤山玩具を持たせつきますと、小兒を戶外へ連れて出ましたとき、玩具屋の前でも通りませぬと、珍らしい玩具が直ぐ小兒の目に留り、袖に纏つて買

いたがりますので、親御さまは随分お困りになりますと、申して外にすかしやうも御座いませんから、歸りに買つてあげませう、と宥めましても、其位の事ではなかく承知致しません、何うあつても買ひませんうちは一足も動きませんで、果ては泣いて強請みますから、據どころなく買つてやるやうになります、斯ういふお子さんは一ツには尋常ならいらく買つた玩具を持つて遊びつけた習慣があるから、何より先きに玩具が目について買ひたがるのだと被仰いましたが、成程これは御尤なことと深く感心致した事がありました。

夫れに小兒の欲しがりますやうな玩具には多く餘業細工を見受けず、頑固な小兒にこれを持たせました爲め、鐵葉の尖きで足を切りましたり、指を怪我をしましたり、するお兒さまは随分是迄御座いますやうです、夫れに小さい小兒ほど玩具を嘗めますから、もしも玩具の破れたるを知らずに居りまして、夫れを口へでも入れたことなら眞實に一大事で御座います、斯んなことを考へますと、小兒が玩具を持つて、機嫌よく遊んで居ますときほど、却つて親は油斷が出来ません。

いろ／＼考へました末、何うしても玩具を買つて持たせぬほうが小兒の爲にもなりますし、又家屋の儉約にもなりませんから、まだ小兒が玩具になじむ癖の付きませぬうちに、とう／＼之れを廢めさても持たせぬ事にして仕舞ひました。したく／＼最も爾う致しますには、何か玩具に代用します品を工夫して持たせなければなりません、幸ひ不用な茶壺が御座いまし

たから、試みにこれを持たせて置きました、夫れから糸巻きの不用なものも一ツ御座いましたから、夫れも持たせました處、矢張り機嫌よく遊びます、斯ういふ品を玩んで居れば別段危ない事もありませんし、また斯ういふ品ですと廢物利用にもなつて、玩具の價を拂はずにも済むことになりませう。是れから後私どもでは玩具は全く不用になりまして、却つて不用になつて居りました茶壺や古い糸巻などを遊び、小兒は喜んで温順しく遊びました。

(完)

今以上の談話を熟讀して見るのに大體に於て玩具を持たせぬと云ふことの理由は主として一家の經濟上及主婦の管理上より來て居る様である、玩具は子供の望むがまゝには逆も買ひ立てられぬとかおとなしく遊んで居る間に仕事が出来るとか云ふのは其ためなのでせう。此お母さんのお考では子供の玩具と云ふものは贅澤のために與へられるか又はうるさいのを免れる爲めに與へるものであると思つて居るのでせう。玩具が斯様に單に母親の方の便利の爲めに與へらるゝものならば、是は別段議する必要もないですが、元來が子供のためと與へらるゝものであるから此議論は的を引いた愚論であると云はなければならぬ。尤も此議論は

多少筆者の書き過ぎもあるだらうと思ふ。子供の玩具は思ふまゝに與へたら可なり。經濟上の問題になるから家計の程度に於て何れも相當な所で制限しなればならぬと云ふのなら、聞えたことであるが經濟上可なりの問題であるから一切止めると云ふのでは話にならぬ。丁度、食ふと云ふことは金の掛ることであるから一切止めると云ふのと同じで何と議論してよいやら判らぬ。或は亦玩具店に賣ける玩具は一切買はぬ家庭内で都合して得らるゝ器物で工夫して遣ると云ふ主意ならば是は全く持たせぬとか一切與へぬとか云ふのではなくて玩具を與へる上に就いての一種の考案である。之を一切與へぬ主義などと云ふのは少しく誇張の言ひ様か又は筆者の誤りである。又某夫人は玩具を與へるに就いて子供は種々なる弊害に陥る様に云つて居るが、是は玩具を與へるに就いての方法の罪であつて玩具を與へると夫自身の罪ではない。其方法は幾等も改良の方法があらう。其が爲めに玩具其物の給與迄も止める必要はない。元來、子供と云ふものは玩具がなければ遊ぶことの出来ぬ

ものである。遊ぶなければ發達の出来ぬものである。して見ると玩具と云ふものは子供に採つては實に大切な米の飯である。之を與へないで子供の完全なる發達を望むと云ふことは尙木に據つて魚を求めめる様なものである。フレイベルが恩物の研究したのである。我等が過去の經驗に徴するも玩具の爲めに何れ位の利益を得て居るか知れぬ。是は誰でも靜に過去を思ひ起したら氣の付くことだらうと思ふ余は殊に此點に於て余の幼時を追想して愉快に堪へぬものがある。余は此愉快を今の幼兒にも與へてやりたいと思ふといやが上にも玩具は完全にしてやりたくてならぬ。兎角人と云ふものは勝手なもので、自分の通つて來た處の幸福は忘れて仕舞つて稍もすれば御都合主義で子供や後進をいぢめ様としたがるものである。是は殊に御婦人方には能くあることの様に見受ける。某博士夫人なども矢張此類の人ではあるまいか、余は疑ふ。博士夫人果して子供の時に人形やまゝ、ごとの道具を欲しがらなかつたらうか、頗る怪しいものであ

る。又此夫人は子供に玩具を興へてある間は仕事が出来て宜しいと云ふことであるけれども是は飛んで来ない間違である。幼児は玩具を持つ持たないに拘らず、決して監護なしに置く可きものでない。殊に會心の玩具を以て専心に遊んで居るときは尙更監視の注意が保姆の眼より照し出されねばならぬ。教育上より考れば此間は實に千金の價値あるときである。幼児の個性は此間に遺憾なく現出す可く、教育者は此間の觀察に因つて、次の教育的計畫を立てることが出来る。そして子供の將來の運命は此間にこもつて居る。此大切な時を見て、放任して置いて濟む、誠に都合よき時間であるなど、は我子の教育に志す人の云ふ可きことではない。是は子供を教育的に育て様と云ふ様な考を根本から度外置いて居る下層細民の家庭で云ふ可きことである。上流社界に於ては子女教養の責任は當然母親の負擔す可きものである。母親は子供の行く所に従つて之を監視し之を指導し之を戒しなければならぬ。若し母親が多用であるなら

ば保姆とか家庭教師とか云ふ類の人が其代理をなす可きものである。然るに、單に之を放任して置くに都合よからしめんために或は金屬製の玩具は危険であるなど、云ふのは事の本来を考へぬ迂論である。次に、玩具は家庭の廢物だけで間に合ふであらうか如何、大に研究す可き問題である。成程、玩具に家庭の廢物を利用するとは誠によい思ひ付きである。殊に家庭の職業を自然的に相續させ様など、考へて居る人には尙更巧妙な誘導方法と云はねばならぬ。此點に於て此主義は一個の教訓を吾等に興へられたと云はねばならぬ。吾人は之を此談話の徳として博士夫人に感謝するものである。併しながら玩具として家庭の廢物は完全なるものなりや、家庭の廢物は玩具として完全なる種類を包含せりや頗る疑はざるを得ぬ。彼理學的現象を観察せしむる種々の玩具の如き果して家庭の廢物中に之を存せりや勿論、家庭生活の程度に因りて其廢物の多少、種類等は各之を異にするに相違ないが如何に多種多量の廢物を出すにもせよ玩具として必要缺く可らざる凡てのものを存せり

や否や吾人は之を疑はざるを得ぬ。且廢物と云ふ以上は何れも使用済のものである。従つて清潔なるものとは云へぬ。時には危険なるものもあらんかと思ふ。若し廢物を子供に與ふとせば此點は如何に處す可きか、或は新なる玩具を買ふ以上に手數と費用を要することなきか之大に研究を要する問題である、尤も、吾人とても廢物利用と云ふことをして居ない譯ではない。紙の切れ端、木片の數々は勿論のこと野菜や、穀類の残りものなど何れも夫々利用の通があつて幼児の遊戯に一段の光輝を添へるものではあるが、今夫人の云はるゝ様には有らゆる廢物の中より玩具を拱扶せんと云ふには玩具の種類を豊富ならしむる必要上勢、危険なるもの不潔なるものをも採集するの止む可からざるものがあらうと思ふ。其時に當つて之を如何に處置す可きは大に考慮す可き問題である。要するに家庭の廢物は玩具として利用す可しと云ふことは結構な主張ではあるが、之を以て他一切の玩具を廢止せよと云ふことは少し云ひ過ぎた議論であると思ふ。恐くは某夫人自身も之を實行し

て居るのであるまいと思ふ。何となれば子供と云ふものはおもちゃを要求せずには居らぬものである。お雛様や鯉職は用ゐずとも人形の二つや二つはおちさんや、おばさんのお土産に貰はぬ子供はあるまいと思ふから何うしても子供が玩具を持たずに、暮すと云ふことは不可能であらうと思ふからである。

幼稚園問題につきて

藤田東洋

一、幼稚園に對する社會の評抑も世間一般に幼稚園教育の効果を全廢説や改良論をなして現在に於ける幼稚園教育を非難するの聲を耳にし無用の長物視せらるゝとは即ち社會の人々が幼稚園教育の何物たるを知らず只だ皮相觀的にして所謂一犬吠ゆれば萬犬相傳ふのではないか併し翻て實際に幼稚園教育が果して非難を受けざる様に主義方針を確立

し完全なる方法の下に保育せられつゝあるか否か社會の人々も決して根も葉も種もなき事を捉へて非難するものにあらざるなりと信ず之れを耳にしたるものは大に反省し其缺陷を見出し改良するの必要があることは論を俟たざる次第なり偕て吾人は保育につきて何等の経験なきのみならず薄學非才にして所謂局外の素人見なり故に幼稚園の保育上の諸點につきて一點何等批難するの資格なきものが此論を革するは甚だ潜越なる次第なり併し吾人が曾て小學校第一學年を擔任して幼稚園の保育を受けたるものと、然らざるものを調べ之れにつきて聊か研究らしき事を行ひたることを見て兩者の差は著しからざる點より幼稚園の効果を疑ひを抱きたりしが先般京阪神聯合保育會は神戸市に於て開會せられ其際京都市よりの提出問題に「幼稚園より小學校へ入學したる兒童の成績如何」と云ふ問題ありたるを幸と思ひ、且兩三年前より吾人が屢耳にする幼稚園の不振問題とか改良論等あり一面我京都市教育會雜誌に於て幼稚園問題の研究事

二、
 項の登載せらるゝを見ざるを以て吾人は犠牲の鬼となりて無鐵砲にも幼稚園保育者諸氏に對し失禮にも非難的論をなしたるは一は自己の素の感想を表して賢明なる諸氏の明正を仰ぎ且保姆諸君の益斯道の爲めに御盡瘁を乞ふ考と又世人の此非難攻撃を取消さしめ大に幼稚園の特長を發揮したき考を以て京都市教育會議誌の餘白を借りて愚見を述べたりと言ふに外ならず、
 吾人は遠慮なく憶面なく皮想的に之れを論ずれば幼稚園の成績の顯はれると否とは其保育の任に當れる保姆其人にあること論を俟たず吾人は幼稚園の施設なり其教育の方法に缺陷ある。幼兒を保育するに家庭的に行はふ勿論此以外の生活に向つて擴張せねばならん之れが爲めには其要求に應じて家庭以外の材料を遺憾なく採取し以て幼兒に提供する大務がある、之れもほんの責め塞ぎのではないが餘り是等に努力せられたるを認めないのである。

三、某新聞の所論と吾人の愚考二、

フレイベル先生の自發活動主義云々と名乗りを
 擧げ其實自發活動たるもの、精神の有る所を汲
 みて之れが方針に向はば好果あらんも然らずで
 はないか吾人は此點を大に半信半疑の念を抱け
 る一人なり去月某新聞に登載せられたるが如く
 「……………現今の幼稚園は中流以上の家庭
 の兒童にあらざれば入園せざる有様にて（保育
 料の點か何か？）之れに伴ふ弊害は豫想外のも
 のあり例へば幼稚園兒童の多くは其家庭に於て
 も幼稚園に於ても我儘放題にして家人又は保母
 も常に其機嫌を取るにのみ腐心し殆んど何等の
 制裁を加へ得ざるが故に自然學校生活を蔑視し
 教員を自己の召使の如く考へ教員の命令に従は
 ざるのみならず此惡風は他の兒童に迄感染し是
 れが矯正に就き苦心少なからず時々叱責其他の
 制裁を加ふれば駄々泣き亂暴を逞ふして手もつ
 けられずされど此種の兒童は其多くは社會の地
 位名望ある家庭の子弟なれば教員も斷然たる處
 分を執り難く不得止機嫌を損せざるに努め不知

不識の間に我儘放縱の風を養成するの傾あるは
 痛心の事に屬す要するに今の幼稚園制度を外國
 の如く純粹の子守的制度とするか然らざれば小
 學校の連絡を取らざるに於ては其得べき利益よ
 りも蒙る弊害を寧ろ大なりと云々此評論は如
 何之れ現今に於ける社會の聲ならんやこれは甚
 だ酷なる評ならん此れを見て大に燃ゆるが如き
 憤怒の情起ること信ず然れども吾人は思ふ此
 の如き幼稚園は極めて少數ならんと信ず
 併し翻つて此自發活動の精神を知り、活動性好
 奇心、模倣性等を巧みに利用せば著しき効果も
 あらん吾人の見聞せる範圍内を言はば彼の新聞
 紙の論ずるが如き點も多少なきにしもあらずと
 思ふ。
 吾人の聞きをる「某幼稚園の主義を聞くに幼兒
 が如何なる惡事をなしたりとせんか如何なる場
 合如何なる時と雖罰したり叱責することなしと
 之れは果して効果あるべきや否兎に角一言とし
 て罰する目的、叱責的の言を發せずいつて聞かす
 と之れは別問題としても此反面には如何なる意

味のあるかを探らば新紙の看破の當れるやも知らず。

四、幼稚園は小學校的である、

吾人思ふ幼稚園へ入園して保育を受けたるものは家庭より直ちに格段の差別を生せねばならん豫期したるものに拘はらず小學校初年級の教育の上及び影響の著しからず即ち吾人の調査したる成績一覽表及其他の調査書も二三ありしが最早必要なものと、反古とせしを以て立派に言ふことを得ず只學科の成績の一端を別紙に表したる次第である。

五、幼稚園及家庭より入學せし兒童の取扱の一面、

幼稚園より入學し家庭より直に入學するの兩者の制度の然らしむる所に依ることならん。幼稚園及家庭より入學せし兒童の取扱の一面、幼稚園より入學し家庭より直に入學するの兩者

に對して直ちに學校的鑄型に入るべきものでない彼兒童は父母の膝下を離れ或は幼稚園保姆の手を離れて初めて小學校に入學した時は生活が俄に一變するから學校では務めて家庭の狀態に近い動作をとつた。

學童が家庭又は幼稚園等に居る時には大抵靜止して居るではない常に活動してをる。これを學校で始めから教室に入れて未だ身を託して見た事もない少々の自由は許すとしても身體なり精神なりに及ぼす變化は著しいものであらう。

之れ故に最初教室に狎れない間は教室へ入れた遊歩場や私は近隣の森やお社へ連れて行つてそして色々な話したり又させたり先づ一二週間を觀察とか整列することなど名を呼び返辭をさせることなど校内の狀況を知らしめ學校生活に漸次狎れしめんとした此様にして家庭にをつた時の狀態と餘り變らないから身體も精神にも急激な變化を與えることが無くて兒童が天然に保つてをる活動的の心性を傷けることはあるまい。

併しこれは批難の種ならんと思ひしも小學校と幼稚園とは違ふ幼稚園ならば子供を先づ遊ばすと言ふが目的であるが最早小學校に入學せし以上は只だ家庭や幼稚園の如く遊ばすのみではない必ず相當智徳を興へねばならないが道理なるも小學校の初期は幼稚園に似たるものである幼稚園でも遊ばすのみが目的でない。倍て先づ私は小學校入學者の教師として先づ其兒童の家庭境遇既往の教育等及び實際どんな身體でどんな天賦的の兒童で幼稚園保育を受けたるものと然らざるものとの區別をなして各個人を得る限りの調査を遂げたり之れによりて着々教授を進行したるに初めの程は如何に幼稚園の効果を喜び且つ憂ひつゝありしが後半期に至りて形勢一變幼稚園の保育を受けしものと普通の兒童と同一になりたるは如何、是等の點を腦裏より復起して紙上の餘白を借りて一言幼稚園の不振と思ひて一筆示したる迄に過ぎず。吾人が此粗漏なる調査と研究せし結果を皮想的に批評を下して幼稚園より入學したるもの、著

しき點を前半期に於て多少認むることを得たるも後半期より餘り其効果なきを論じたるに過ぎず一學年の教授の良否は兒童將來の教育に影響すること少なからず若し幼稚園に於ける教育が改良發達を計らるゝと共に小學校教育の準備教育とならば學校の教育は最よく行はれ種々なる弊害も除かるに至らん其他内容即保育事項の千偏一律的でなく時世の進運に伴ひ其幼兒の心意發達に適當するに勿論更に進んで地方的に化し興味ある材料を要す、時々自然現象自然物に接觸せしむること各幼兒の個性を観察之れに向つて雙方の研究をなし且最初に論せし保姆の資格と待遇(保姆修養)を改良する等多々あらんと信ず是等の問題に就きては京都府教育會雜誌(二百〇八號)九月分に登載せし次第なれば同誌につきて御一讀の榮を給ひ叱正を仰がば幸なり。



幼稚園出身兒の成績に

關する調査に就て

和田 實

幼稚園出身兒の小學校に於ける成績如何と云ふとは、從來多大の興味を以て尋ねられたる所であるが、元來、精密にして多數なる統計を要する爲に何處でも充分の結果を收むることが出來ないで、徒に反對者の批難的臆説や辯護者の駁論があるに過ぎぬ。之は我幼兒教育上極めて重大なる研究問題で吾人は一日も早く此問題を解決して見たいと思ふて居るのであるが、奈何、現在の幼兒教育法、否從來の幼兒教育法其物が非常に缺點を以て居たのであるから、之を吾人の眼から見ると從來然のみの成績を擧げて居らぬのは、因より當然の様に見えて之が成績を調査するの何だか詰らぬ様な感がする。併し、從來の方法とても保姆其人の枝量に因つては各地に於て相當の成績を擧げて居る様である。例へば東京女子高等師範學校附屬小

學校に於て過去十年間の附屬幼稚園經過兒と直接入學者との成績を比較したるものを見るに、唱歌に關しては、十ヶ年中唯二ヶ年のみ直接入學者に劣れるのみにして他は凡て優勝の成績を表して居る。然るに此直接入學者と云ふもの、過半は大概市内の他幼稚園の出身兒である所を以て見れば附屬幼稚園兒童の唱歌に關する成績は非常に好成績と云はざるを得ぬ。是は從來の保育法中唱歌が最も理想的に合理的に教授されて居つた爲めと一つは附屬幼稚園の保姆が何れも女子高等師範の出身で音樂に堪能の人多く、従つて、他保育科目に比較しては均衡を失する程に唱歌の技能を進めたこと云ふ二つの理由に基づくのであらうと思ふ。兎に角、之に因りて見ても幼兒教育の成績は保姆の技量と保育法の如何とに因つて相當に擧げ得らるるものであると云ふことは判るであらうと思ふ。地方などには時々非常な熱心家があつて普通、パンの爲めや事情のためや又は虚榮の爲めに行つて居るのでなく、實際一種の信念に驅られて熱心に行つて居られる所では、矢張相當に良成績を上げて居る様

である。嘗て本誌にも濱松幼稚園の成績に就いて掲載したことがあつたが該報告の示す所は明に同幼稚園出身兒の成績の良好なるを示して居るとは當時の記事を讀まれた方の記憶せらるゝ所であらうと思ふ。殊に最近に神戸なる長狹尋常小學校に於て調査したる報告書は實に立派な成績を示して居る。参考の爲めに其全文を左に掲げて見やう。

* 幼稚園卒業兒は小學校では其成績
* 概に良好である

幼稚園の卒業兒が小學校に於ける成績は如何であるかといふことに就いて世間に種々の臆説があるが今長狹尋常小學校に於て六百七十三人の兒童中百六十二人の幼稚園卒業兒童に就き算術唱歌國語手工の四學科の成績を比較調査せしに何れの學科に於ても幼稚園卒業兒童の成績良好なるを知ることを得ました美術唱歌國語手工の四科目を選みたるは思考學科と技術學科とを比較調査せん爲めである其詳細は左表に由て明瞭である但し十點を全

點として調査す。

差	普通生	幼稚園生	美術	唱歌	國語	手工
四、四	七、五	八、〇	八、三	八、三	八、三	八、二
五、一	七、八	七、八	七、八	七、八	七、七	七、七
五、〇	七、四	七、四	七、四	七、四	七、四	七、四
四、三	七、四	七、四	七、四	七、四	七、四	七、四

尚又幼稚園の卒業兒は小學校へ入學の當初は其成績優良なるを學年の進むに従ひ漸次普通生に劣るといふ臆説もあるが是亦事實間違であるといふことを證明することを得ました本校の調査では各學年各學年とも幼稚園卒業兒童の成績良好なるを示して居ることは左表で明白である。

手 工	國 語	唱 歌	算 術	一學年三學年三學年四學年五學年					
普通生	幼稚園生	普通生	幼稚園生	普通生	幼稚園生	普通生	幼稚園生	普通生	幼稚園生
七、五	七、六	七、七	七、六	八、二	八、〇	七、八	七、八	八、四	八、二
八、〇	八、五	八、四	八、三	八、六	八、四	八、二	八、二	八、六	八、二
七、四	八、三	八、三	八、三	八、六	八、四	八、二	八、二	八、六	八、二
七、九	八、三	八、三	八、三	八、六	八、四	八、二	八、二	八、六	八、二
七、八	八、一	八、一	八、一	八、六	八、四	八、二	八、二	八、六	八、二

以上の如き調査研究が各學校に於て確實に行はれて大數觀察の結果を尙明確に知ることを一層深く希望する次第である。

明治四十二年四月神戸市立長狹尋常小學校長田村龜太郎調査。

以上の調査は其基礎に於て實に大膽なるものである。此方法に因れる調査の結果は多くは兩者の優劣を曖昧ならしむるの常であるのに此表は幼稚園出身者の立派なる成績を示して居る。之に因つて見ると我神戸に於ける幼稚園保育の狀況は餘程優良なる成績を挙げつゝありと云はねばならぬ。

東京女子高等師範學校に於ける同方法の調査は唯唱歌と手工とに於て常に幼稚園の優秀なることを示す外、國語、算術等、に於ては其勝負頗る不明にして判しがたきものとなつて居る。是は何故であるかと云ふに此調査の方法たるや。唯兩出身者の得點を平均するものなるが故に其根本に於て兩者の出身幼兒の個性は大體相等しきものとしての假定の本に調査せられたるものであるから、一朝何れかの組に底能兒又は天才的優秀兒があつ

た時には全體の得點の上に非常な狂が出て來て從つて調査の結果を不明にしてしまふ恐れがある。幸に兩者の兒童が何れも大體伯仲の間にある個性を有して居るときか又は兒童の數頗る多量にして且其數略相等しきかの何れかの時でないに充分に信の置ける成績を得ることは出來ない。故に最も信用の置ける調査の方法は濱松幼稚園の成績に就いて嘗つて吾人の調べた様な方法である。勿論、此方法もなる可く多數の兒童を統計することが確かである。其方法と云ふのは、左の通りである。

- 一、兩出身者(家庭より直接入學者と幼稚園經過但幼稚園成績の優劣に因つて三等に區別す可し)
- 二、各等級毎に何名の兩出身者あるかを計算す可し。
- 三、兩出身者別に總數を以て優等、中等、劣等の各數の百倍を除す可し
- 四、以上の結果は左の如くなる可し

劣等

五、

斯くして表はれたる数字の優等の側に近く
多敷く有する方が勝となるものである。

無論、此調査法とても少数ではいけぬ。子供の數
はなる可く多い方がよいのである。が唯、天才や
底能兒が少し位あつても夫等の居るが爲めに成績
の結果を沒了される恐はないから、此方法に因れ

る調査が尤も信を置けると思ふ。吾人は目下此方
法で調査中である。其結果は何れ又發表するであ

らうが地方に於ても續々此方法に因れる調査の御
報告あらんことを切に希望する次第である。

前號には藤田東洋氏の熱心なる所論が出て居る。
是に就いて今吾人の感想を述べで見やう。尤も幼

稚園出身兒の長所に就いては別段述べる必要はな
いから其短所とせられた點だけに就いて述べて見

やう。

一、教師に狎れ過ぎて尊師の風が更にないと云ふ
とは小學校の先生より屢々耳にするものであるが

吾人の知れる範圍内では期様の事實を見出すのに
頗る困難を感じず。惟ふに之は幼稚園其もの、罪

ではなくて保母其人の人格に關するものであら
う。吾人の知れる範圍内では教師を尊敬すること
却つて小學校の兒童より勝つて居る様に思ふ。

是は多分地方に於て如何はしい學力も技量も將た
人格上にも缺點のある間に合せの子守見た様なの
を保母として雇ふた結果、子供を教育するどころ

ではなく、却つて之に逐ひ使はれる様なことをし
て居つたところの幼稚園から出て來たものに就い

て云つたのだらうと思ふ。東京市内にも聞く所に
因れば此種の幼稚園が少くないそうであるから、

……若し又そうでないとするれば或は教師の觀察眼
が疑はれねばならぬ。吾人は斷じて幼稚園が特に

此種の弊を生ず可きものではないと思ふ。若し、
生ずとせば其は小學校に於けると同様な理由に基

く、即ち保母其人を選べば此弊は當然なくなるも
のであると云ふことは斷じて疑はない。

後段教師の教授する事項を能く聞き以て學習する
ものが少く、凡て早合點して氣儘に教授に注意を

拂はず、浮薄にして一般兒童の防害を爲すと云ふ
こと、之も幼稚園其物の罪ではない。是には二つ

……

の原因がある。一つは保母其人を得ないで始終無駄言を聞かせたと云ふこと、一つは小學校の教師の教授が彼等の發達程度を出發點とせず、徒らに獨斷なる教案に因り興味なき事項を強ひんとすること、是である。

二、規律を確守せずと云ふこと。

成程、幼稚園出身兒は規律を確守しない。是は事實である。併し、是と反對に家庭より直接來れるものは、果して規律を確守して居るであらうか、余は斷言する。是は亦事實でない。家庭から來た子供とて決して規律を確守しては居らぬ。唯、之を見る觀察者は一方は自由勝手に動き回るから、此奴、不屈者であるとにらむに反し、一方は何うしてよいか判らぬのと始めて斯る場所へ出たので、氣後れして幾分か遠慮の氣味で唯々諾々として居るのとの差であると思ふ。之を以て家庭より直接來たれるものは規律を確守するとは云へぬ。是れから教育を初め様と云ふものが入學の日より規律を確守することが出來るものならば訓練は何も六ヶ敷いものではない。單に、おとなしい

のを見て訓練が既に幾分上達して居るなど、考へるのは、所謂お人よしを見て大聖人と考へる様なもの、そんな馬鹿らしいことはない。幼稚園經過兒の暴ばれるのは規律を破らんが爲めに暴ばれるのではなくて、幼稚園に於ける自發活動獎勵の結果であつて保育當時の效果である。之をしも保育の弊害と云ふならば教育學上に於ける今代の筋肉運動主義其ものからして覆して掛らねばならぬ。尋常一年の教育をして木偶の棒にも出來る様に容易きものにするのが果してよいならば幼稚園教育は寧ろ有害であるが、眞の教授、眞の訓練が筋肉運動主義に因るに非ざれば達し難いとせらるゝ、今日は到底、幼稚園教育を度外に置く譯には行かぬものである。其結果は尋常一年の授業をして益困難ならしむるは誠に止むを得ぬことである。勿論、幼稚園出身兒と雖も暴れるのがよいのではない。是は漸次適當に教育す可きであるが幼稚園出身兒が直接家庭より來れるものに比して無遠慮にして臆する處なきは當然のことである。従つて、之が尋常一年となつた時は其取扱上に

於ける困難の度が從來のに比して多いのは詮方なき次第である。

三、一學年に於ける躰方に苦心を要す、二、ふつと尤もの次第である。從來の自發活動の奨勵はあらゆる方面に結果したかも知れぬ。是は今後の保育者の大に注意を要する所である。が幼稚園の教育法が如何に進歩したからとて小學校の教育法を、從來よりも容易ならしむることは出来ぬ、是は標題の如く一大苦心を要するものである。併し一大苦心を要するからとて是が幼稚保育の弊害と見るは不當である。

四、生半熟は悪し寧ろなきに如かずと云ふと、是は聞えぬ話である。幼稚園教育がないからとて幼児教育がないと云へやうか、家庭から直接来たものでも相當に幼児教育を受けて来たのである。小學校が如何に教育獨占主義を振り回はしても生れたての子供に直に小學校教育の出來様筈がない必ずすや幼児教育の基礎の上に行はざる可からざるものである。唯、議論は幼稚園と家庭とは果して何れが比較的完全なる幼児教育をなし得るかと云ふ

に歸する。従つて生半熟であると云ふことは其家庭より直接來れると幼稚園を經過して來れるものに於て差違ある可き筈がない。唯異なる所は其程度の差である。併し、是は教育の段階の凡てに共通したものであるから獨り幼稚園のみ責むるのは無理であらう。試みに見玉へ、小學校の教育の何れの方面に對しても半熟のことを進んで高等女學校が凡ての方面に於て著るしく生半熟のことを、況んや教授と云ふことを主とせざる幼稚園が生半熟であるのは寧ろ當然の結果である。然るに之を以て寧ろなきに如かずと云ふのは心なき中學校の先生が小學校の教育を輕視し蔑視すると同じで片腹

五、生活の變動と云ふこと。若し斯様なことを現在に於ける幼稚園の實況とすれば世人が幼稚園を攻撃するのも無理はなし又幼稚園の保姆が子守と同視されて小學校の先生にも輕蔑されて居るのも無理はないと思ふ併し是は幼稚園夫れ自身の罪ではなくて保姆の悪きが爲である。保姆の改良が出来れば自然なくなる者である。

六、物知り顔して教師に答へず隣生に話すと云ふ

ここと。
生半熟になる様にしたことは物知り顔をさせるこ
たゝなるから是非否定出来ぬことではあるが是が
爲めに教師に答へず隣生に話すと云ふことは悪い
意味に取つてはならぬ。此處が無邪氣で謹まない
所である。是は教師の力に因つて適當に導き適當
に謹ませねばならぬ。併し、幼稚園では此邊まで
踏み込んで躡ける譯には行かぬ。幼稚園は幼稚園
の領分がある、是以上は何も他の領分内に迄も踏
み込んで餘計な世話を焼くに當らぬ、又小學校に
しても、何も幼稚園に己れの領分迄も耕して貰ふ
必要はない、是も幼稚園の缺點と云ふ譯には行か
ぬ。

七、普通の児童よりも亂暴なりと云ふこと。

横行と云ふ字と濶歩と云ふ字は熟字である丈に、
濶歩の癖あるものが往往にして横行する様になる
のは止むを得ぬ。幼稚園は主として幼児をおめす
臆せず濶歩せしめ様として居る。従つて稍もすれ
ば横行するものゝあるのは止むを得ぬ、併し、幼

幼稚園に在るや決して横行するものがない。而して

小學校に行くに及んで横行するものありと云ふ。
蓋し、小學校の先生が從來の教育を無視して児童
の各個性に適切なる教育を施さず。漫然放任する
が故に斯の如き結果となるので、云はゞ小學校の
缺點で幼稚園の缺點ではない。
八、普通の児童よりは善く喋舌ると云ふこと。
多辯にして靜肅を欠くと云ふことは程度の問題で
あつて必ずしも悪いものではない。今の幼稚園出
身兒が教育上有害なる程多辯にして喧噪なりやは
實際を見ねば判らぬものであるが、余の知れる所
や附屬幼稚園の成績では未だ何等の弊害をも認め
て居らぬ。

九、教科の重複より倦怠すること。

是は少し無理である。對手が幼兒のことであるが
ら徒に重複せるものに倦を來すのは當然である。
教育者は倦きを來さぬ様宜しく材料を變化して教
へて貰ひたい。世界は廣い、學ぶ可き材料は無盡
藏である。此寶庫から教授材料を探る。宜しく幼
兒の既知のものを出發點として選擇す可きであ

る。何を苦んで平凡なものを倦きるものもかまはず重復せしむる必要があらうか、是は小學校の教授細目を批難せざるを得ない。是は一郡一市一町村に於て拘り定規に一定したものを基礎教育の如何に關らず無理押し付けしやうとする結果で、決して之を以て幼稚園の欠點と見ることは出来ぬ。十、教科に於ける成績。

是は目下調査中であるから判り次第發表するとしやう。
以下藤田氏は幼稚園改良策につきて屢々述べられたが尤もなことで別段異見もないから是で筆を措くとしやう。

美貌に就きて

醫學士 S U 生

什麼したら美しくなれるか、什麼したら、何時迄も美しうて居るであらうかと云ふことは、婦人としては最も懸念すべきことでありまして、其れは

當然の義務であらうと思ひます。云はゞ美は婦人の最も良き紹介状でありまして、美の得點は第一、一見して他人の同情を得易い。又適當なる美容法は、衛生にも適へるものであります。正しき化粧法は、凡て化粧品とか、又は物理的美貌法には依りませぬ、斯の如き美貌法は、徒に其の効力を稱用して發明者の囊中を充たすのみで、之れを用ゆるものは、一の犠牲とも云ふべきものであつて、却て少なからざる害を被るのであります。正しき化粧法は大抵は單純の簡單な方法で至れり盡せりであります。

凡ての化粧法で、清潔と云ふことが、常に其の主腦をなして居ります。其清潔も併し、正當であつても目的に適つて居なければならぬのであります。人間の身體中で、美に關して最も眼に付く部分は、顔であります。夫れ故第一に美顔のたしなみが、一番必要でありまして、例へば、窈窕花の如き顔に接すると、人をして一種の快感を懐かしめるのは、其れが人情であります。茲に於て先づ起るべ

き問題は洗面で一日幾度位したら良からうかと云ふこととあります。其の答は一樣には云へませぬ。勿論境遇によつて色々である。土仕事などするものとか又は塵埃とか煤の中で働く女工の如きものは、元より工場の休業後、又は食事などのときには洗面の必要があります。併し普通の家庭では、其人の皮膚から脂肪の出加減によりてまち／＼であります。顔面の皮膚が直ちに膩ぎる人、又は皮下脂肪組織がぶよ／＼する程に發育した人は、度々洗つても差支へがないのみならず、之れが却て必要であります。併し洗面の度毎に石鹼を使ふ爲めに、皮膚の脂肪はからからに乾燥する様な人は、元より洗ふべき度数を制限せねばならぬのであります。脂肪の多い皮膚は、脂肪の補ひも早く出來る理由であります。之れに反して、元來脂肪の少ない乾燥した皮膚の方は、度々洗ひますと尙一層乾燥し、又暴れて參りまして、塵埃や不潔物が皮膚のきめに挟まりますから、清潔と云ふ目的は全然反對になつて參ります。普通には朝夕一回宛は洗面致します。そして洗面の度毎に石鹼を使用す

る必要はないのであります。皮膚の暴れ性の方は、石鹼を使用すれば、皮膚を刺戟するから、之れは一般には避けなければなりません。そして單の湯で洗ふとか、又は尙ほ優れたる方法としては、何にか、化粧油で顔面を摩擦するのであります。度々洗面することは成るべく避けるのであります。其の化粧油は、黄色いワゼリンに少量のラノリンを混合したもので澤山であります。洗料に用ゆる水に雨水が最も適當して居ります。畢竟雨水は軟水と申しまして、有機化合物を含有することゝが少ないからであります。冷水で洗面するのは、普通氣持が善いからであります。併し膩ぎつた皮膚には、湯の方が効力が多い、其膩ぎつた皮膚には、硼砂か重碳酸曹達を一刀尖量丈け洗面盤に入れて、湯で溶いて用ゆるのも宜しいのであります。

一旦洗面した後で、皮膚を乾燥させることは、深き注意を要します。白粉の様な粉を振りかけるのは、乾燥の助けとしては間違ひであります。一體粉は皮膚を餘り乾燥させ過ぎて又皮膚表面にある

氣孔を、閉鎖して腺の分泌を妨げまして、皮膚を不潔にする恐れがあります。

男女とも、若い人に取つて最も心痛の種となるものは、不潔なる肌色でありまして、肌色は人間の發育と關係致します。處女及び青年の春機發動期に於ては、人體に一大革命が起りまして、一般に此の時機に於ては、急に身體が發育するのであります。青年では喉頭が大きくなりまして、聲變りがする、處女の乳房は日に日に肥る。又兩性共身體の諸部に粗雑なる毛が生へてくる。殊に青年が大人となつた證據として、口髭が濃くなる、其外に種々の變化が身體及び精神に起る時機であります。之れを例ふれば、花咲き鳥鳴ふの頃、春雨も霽れ渡つて、萬木露を含み、みづくと生長するのと同様であります。人體の皮膚にある腺、殊に皮脂腺が、此の比較に最も能く適合致します。

此の春機發動期になると、凡ての腺、殊に皮脂腺の作用が旺盛になりまして、腺から分泌致します。皮膚が腺内に蓄積して、最早舊の性状を保つことが出来なくなつて參ります。

此の皮脂腺作用の旺盛が、普質の面皰の發育を促すものと見て差支はなからうと思ひます。其外の面皰の原因に對する觀察は想像に過ぎない、時として内臓病に罹り、又は一般状態が侵かされて氣分の悪いとき、例へば萎黃病、便秘があります。面皰の出來るとき、併し人の云ふ生殖上の事は、

面皰と毫も關係がありません。併し人の云ふ生殖上の事は、此の惱さい面皰は、硫黃石鹼又は硫黃膏を適度に使用すると、速に治癒するものであります。其の方法は下の如くするのであります。夜間就眼前に於て多量の脂肪を含有する醋酸イヒチオール石鹼と湯を以て顔面を能く洗ひまして、次に乾いた手拭で拭ひ去り、其上へ其の不潔な部分へ二十倍の硫黃膏を擦り付けて、其翌朝に膏藥は石鹼で洗ひ去つて、顔面を全く清潔な手拭で乾燥させるのであります。此際に皮膚の乾燥と云ふことが必要でありまして、乾燥させるときに、清楚りと乾かした手拭を用ゐねばなりません。之れは前に手拭中に居た不潔物が腺内に這入つて傳染すると云ふ危

い事實であります。併し人の云ふ生殖上の事は、面皰と毫も關係がありません。併し人の云ふ生殖上の事は、此の惱さい面皰は、硫黃石鹼又は硫黃膏を適度に使用すると、速に治癒するものであります。其の方法は下の如くするのであります。夜間就眼前に於て多量の脂肪を含有する醋酸イヒチオール石鹼と湯を以て顔面を能く洗ひまして、次に乾いた手拭で拭ひ去り、其上へ其の不潔な部分へ二十倍の硫黃膏を擦り付けて、其翌朝に膏藥は石鹼で洗ひ去つて、顔面を全く清潔な手拭で乾燥させるのであります。此際に皮膚の乾燥と云ふことが必要でありまして、乾燥させるときに、清楚りと乾かした手拭を用ゐねばなりません。之れは前に手拭中に居た不潔物が腺内に這入つて傳染すると云ふ危

に於ては、人體に一大革命が起りまして、一般に此の時機に於ては、急に身體が發育するのであります。青年では喉頭が大きくなりまして、聲變りがする、處女の乳房は日に日に肥る。又兩性共身體の諸部に粗雑なる毛が生へてくる。殊に青年が大人となつた證據として、口髭が濃くなる、其外に種々の變化が身體及び精神に起る時機であります。之れを例ふれば、花咲き鳥鳴ふの頃、春雨も霽れ渡つて、萬木露を含み、みづくと生長するのと同様であります。人體の皮膚にある腺、殊に皮脂腺が、此の比較に最も能く適合致します。

此の春機發動期になると、凡ての腺、殊に皮脂腺の作用が旺盛になりまして、腺から分泌致します。皮膚が腺内に蓄積して、最早舊の性状を保つことが出来なくなつて參ります。

此の春機發動期になると、凡ての腺、殊に皮脂腺の作用が旺盛になりまして、腺から分泌致します。皮膚が腺内に蓄積して、最早舊の性状を保つことが出来なくなつて參ります。

險を避けるのであります。即ち手拭を熱湯中に暫時入れておいて不完全な消毒をするのであります。

面皰には黴菌が入りて、膿點を作ることは稀なからぬことであります。此の際には次の法を行ふた良い。併し之れは少々醫術に涉りますが、方法が簡單でありますから一寸申上げておきます。面皰がまだ初期であつて、發育最中であつたならば、其後の發育を妨げなければなりません。それには、日々五十倍のレゾルチン酒精を、數回宛塗り付けます。それで大抵は奏功するものであります。若し膿點がなかなか取れないときには、熱氣にあて、暫く消毒した新しい針で衝き破つて膿汁を排出し、其後でレゾルチン酒精を塗り付けるのであります。此所に注意すべきは、炎性のある面皰であります。即ち周圍が赤くなつて、其の部分に熱を持つて居るものを、押し潰すのは良くありません。其の爲めに膿汁が健康部に押し遣られて、新に又面皰を作るとか、又は大きな瘍瘡の様な膿瘍を作ることがあるからであります。之に反して、炎症

のない單の面皰であれば、毎日毎日、鏡に向つて、母指で以て、軟かく押し潰して宜しいのであります。そして顔面を湯と泡の出る石鹼で良く丁寧に洗ひ去るのであります。之れを押し潰すのには、一種特別の道具が出来てあります。兎に角押し潰すのに餘り暴力を用ゐては、却て炎症を起したり又は他部に生ずることを、促す恐れがあります。若し面皰の腺を爲す皮脂が硬過ぎて、押し出し難いときには、寧ろ其の軟化を待つ方が良いでしょう。軟化させるのには、前にも申し上げた様に、就眠前に硫黃膏を塗つておいて、朝になつて之を洗ひ取ります。硫黃膏は無論何處の藥店にでもあります。炎症のあるときには、靜かにしておかねばならぬ。併し夜間サルチル酸石鹼膏を塗り付ける位のことではかまはぬのであります。そうすると大抵化膿しないで引込むで仕舞います。面皰全體が化膿したときは、消毒を注意して針で衝き破り膿を排出する外に手が無いのであります。

面皰が數限りなく澤山續出するときは、石鹼と湯

とで度々洗つて、其後にレゾルチン酒精、又はサルチトル石鹼酒精を塗つて、注意を怠らない様にするのであります。

是等の局所療法の外に、消化し易い食物を攝る様にせねばなりません。勿論運動も可成多かる必要が有る。食料としては可成多量の果物、又サラダの様な蛋白質、脂肪の少ない食物を攝り、之に反して、卵とか、強き薬味とか、又多量の肉類は避けた方が佳いのであります。其れは水分を澤山攝るのは頗る宜しい。例へば、礦水としては、炭酸水などは、稱用すべきものであります。併し酒類は多量には良くありません。又度々入浴せるのは、勿論療法の一つであります。不潔なる肌色の内で、最も忌むべきものは處女の赤鼻であります。殊に之は冬季に多いものであります。誠に不愉快なものであります。突然に鼻の赤くなるのは、御承知の通り、寒い所から急に暖い空氣中に入るとか、暖いものを飲んだ後か、又は酒飲後とかに起るものであります。之が多くの婦人方の苦悶の種となるのであります。其の

原因は、大きな血管の緊張力が少なくなる爲であります。此の醜い赤鼻に對する療法としては、ベンチンを鼻に塗ると、其が盛に蒸發して其の部分の熱を奪ふから、血管は縮少して、鼻の尖端の赤味がとれる。其の用法は、可成多量のベンチンを要するのであつて、之は鼻の赤い所に擦り付けるのではなくて、暫時押しつけるのであります。其の爲めに、鼻の光澤が消えて鼻の紅色も褪めて參ります。

斯んな一時的のもの、外に、神經性赤鼻が一層多ふ御座いまして、之れは頑固な永續的のものであります。其の原因は色々であつて、冬季には自然凍傷が主なる原因であります。其外に赤鼻にも種々あつて不消化病の爲めに起るものもあるし、又は血液循環の不充分な爲めに起るものもあります。斯んな種類の赤鼻に對しては、元より外から藥を付けても効力はない、只管消化器の健全を保ち、又血液循環を良くするの外はありませぬ。併し赤鼻の中には、随分盛に充血して鼻の皮膚の薄くなつて居るものも頗々見るのであります。甚しき

ものは酒查鼻と申しまして、赤くなるのみならず、其の部分が膨脹して居るのであります。斯の如きものでは、多量の飲食物を攝取しない様に心掛けねばなりません。其の譯は多量に飲食しますると、顔面及び頭部に充血を起し易いからであります。飲食物の内でも、茶、咖啡等の刺激性の飲食物、又は脂肪に富める食物、及び麥酒等の酒類は殊多量に攝つては良くないのであります。其外に寒い所から急に暖い所に入ること、又反對に暖い所から寒い所に入ることも、又鼻を度々弄ること、度々洗面して鼻を洗ふことなどは避けねはならぬ。又一言附け加へますが、多量の飲料の良くないことは、單の水でも赤鼻を起すことがあります。又た此に苦める淑女の日常注意して貰ひたいことは、暖い飲料も可成飲まない様にすることでありませぬ。

一時的の赤鼻でなくて、持續的に苦しむ人は、冬季に於ては只清水のみを用ゐて、鼻の部分丈は可成濕さない様にして、只榨つた手拭で拭ふのであります。手布で屢々擦るのは宜しくありません。

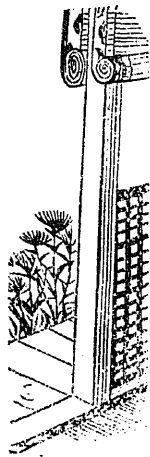
ぬ。餘り摩擦し過ぎると、皮膚が薄くなつて、充血を起しまして、光澤なくしてくるから、益々其の赤鼻の度を進める許りであります。又鼻の皮膚は、自然が具へて呉れた脂肪素を有して居る。其の自然が與へて呉れた脂肪素を、石鹼で以て全體取り去ることは、勿論自然に背いて居るのであります。一體身體中で顔面の攝生は、事に注意を要するのであります。が、療藥としては、誠に乏しいのであります。

尙一言申上げておきますが、以上の法で全快しないから、不満足で以て、何か他の秘法を索めんとして汲々たるの愚に陥られない様に、願ひたいのであります。坊間鬻ぐ所の種々の賣藥中には、随分如何はしいものがあつて、却て皮膚を害ふ許りであります。其れ故其際には寧ろ信用のある醫師に就かれる外はありませぬ。専門醫に頼むのは最も適當でありますから、姑息の療法を行ふて、却て大切なる顔面を害ふてはなりません。

彼の白粉は、鉛を含有して居りますから、吾國では、殊に俳優が其中毒に罹り易いが、併し婦人

には比較的少ない、鉛毒の爲めに慢性中毒になると、一種の中毒性麻痺を起し、先づ両手が利かなくなるかと、其外に種々の忌むべき症状が伴ひます。一度此病氣に侵される時は、頗る頑固であつて、其被害の原因を全廢せねば、到底本病の治癒は望まれませぬ。

終に尙一言添へたいと思ひますのは、近來、婦人方の内には、殊に學校生活を過ぎた方には、却て、素顔を以て自任せられて、顔の化粧には齷齪せられない方も、見る様であります。之れは婦人の持前である。美顔に對して不忠實であると云はねばなりません。然し男子の内にも顔料を用ゆる様な矯治者のあるのを聞きますが、斯く化粧の範圍が廣くなつて來ても困つたものでありません。(衛生雜誌)



此頃のお料理

石井福子

△椀(寄せ蓮根)

よせ蓮根を拵へますには、先づ蓮根の節々の所より切り、皮をむいて直に水の中へ入れます、其儘置きますと、皮をむいたあとが黒くなりすからです。

鍋に湯を沸かし、酢を少々落し入れて右の蓮根を入れて茹でる、酢を入れるのも黒くならぬ爲でございます、(其ものにも因りますが、スップを取るものは水より、只茹でるものは湯より入るを普通とします)。

茹で過ぎぬやう五六分間にて取り上げ、水に入れて冷し、卸金で摺りおろし、摺鉢の中へ入れまして、摺小木で能く摺ります、そして其蓮根の五分の一位の量の片栗粉、又は固まりをつぶしたる

葛粉くづを入れて摺り交せ、尙鶏卵なまけいらん一二個を加へ鹽しほと味淋醬煮切みりんじょうにきり（煮切はきりとは、味淋みりんの酒氣しゅきのぬける迄煮までつめたるもの、鹽はからくなき程入るべし）とにて味をつけ、さて、ブリキ製の四角の器（ビスケツトの空鐘あきかねなど）へ、美濃紙みのがみを敷きまして、其中へ摺りたる蓮根はすねを入れ、木杓子きしゃくしに水をつけて上面を平らにならし、蒸籠むしかごに入れて蒸すのです、一寸二分位の厚さの物にても三十分間位で出来ます。出来たるか否やを見ますには、箸はしなどをさして見て、箸に蓮根はすねがつかなければ、出来たのです、蒸むさらぬうちには、箸につきます、出来ましたら、取出し、板の上に伏せて器を除き、紙をはがして、程よき大きさに切り、椀わんに盛ります、つまみ菜なまめは別に茹で、水を絞つて、蓮根の端の方へ盛り添へ、汁をつぎ入れて出すのです。汁は、鯉煎汁こいぢんじゆ、昆布煎汁こんぷぢんじゆ、好みのものにて、普通ふつうの椀の汁に仕立つれば宜しいのです。

△梨子の酒煮

質たちのよい梨子なしを、皮かはを剥むいて四五分の角かくに切り、

鍋なべに入れまして、酒さけと味淋みりんと半々はんはんに合あせて共ともに入いれ、火ひにかけて煮にます暫しばしく煮にて酢すを少すこし加かへ、弱よわ火ひにて柔やわらかになる迄煮までまして、少すこし深ふかみある小皿こざらに、汁共じゆともに六つ七つ盛り、砂糖さとうを少すこしかけて出だします。

△深

皿ざら
（鰯落花生いりばなあ）

鰯いわ又は其他そなたの魚うなぎにても、鱗うろこを去り、三枚まいに卸おろしまして、小骨こほねなども毛拔ぬきにてぬき取り、鹽しほをふりかけて其儘そのま暫しばしく置おきます落花生たんばなは、炒りたるものを、皮かはを取り、摺鉢すりばちに入れて能く能く摺りつぶし、砂糖さとうと鹽しほ、少すこしの醬油せうゆ等とうにて味あじをつけ、酢すを入れましてどろどろに成る位くらいにのべるのです、味淋酒みりんじゆな

どを入いるれば、尙味なまあじがよくなります。前まへの鹽しほを當あて、置おきました魚うなぎは、鹽しほのき、ました頃まへ、水みづをかけて洗あひ、さしみ庖丁はうちょうで細こく切り、右みぎの落花生たんばなの中なかへ入れて箸はしにて能く搥かき合あせ、深皿ふかざらの真中まんなかへあまり、多おほくなく、山やまなりに盛り、青柚あおゆ子こをすり卸おろして、上うへよりばらばらと掛けて進すすめるのです。

●配布玩具の説明

○一二歳男女、リングベルス。

該期兒童に適當なる玩具は其の種類最も少く乳時期に於ては尙オシャブリ、からゝの類がありますけれども二歳三歳の兒童に殊に適當なものが少いのであります、そこで今回は何か工夫したいと云ふので會の方では色々と研究した末やつと此のリングベルスと云ふのを作ることになりました、之は鎖を環にして、其周圍に澤山の鈴を付けたもので、其の形は兒童の意に従つて變じ、其變する間に各鈴が音を發するから之を樂みに手に持つて頻りに振る、引つ張る、投げる、頸に掛ける、如何様にでもなつて、危険の恐れなく、又丈夫で、該期幼兒には至極適當なものであると思ひます。

○三四歳男女、六色圓板

此の時期は先づ觀察玩具が適した時であるが前回より度々此の種ものを配布しましたから今度は少しく工夫する様なものに致しました此の六色の圓板を送ることにしました、之は六色の所謂基本

色を厚紙の兩面に張り之を圓く打ち抜いたもので數が四五百もある、之をむやみに集め、掻き廻し或は室一ぱいに並べ、汽車路も出來れば、山も出來る、何の形でも大きく出來る、色を觀察せしむると同時に多少工夫想像の練習をなさしめ殊に數に對する觀念の培養ともなります、一體に兒童は數の多きを好むものである必ず意に叶ふだらうと思ふ、其の内だんぐりなくなるが、全く無くなるには餘程かゝるでせう、全くなくなつた時などを御通知して頂けば多大の參考となるのであります、此のなくなつた時は最早此の玩具は職責を全ふした時であります。

○五六歳男兒、大砲

頗る頑固な鑄鐵製の大砲を送ります、例の紙彈丸でやれば大きな音が致します、之は新しい、珍しいものではないが、模倣玩具用として當期兒童に必要なものであります

○五六歳女兒、西洋家具

此の玩具は椅子四脚、四脚テーブル、寢臺の三種六ケのものが竹で巧に造つてある、模倣玩具とし

て最も適當したもので、從前より確か兵庫邊の名産としてはおつたが價が餘程高いものであつたと思ひます、東京で賣り出したのは今回が初めて價の割合には餘程甘く出來てゐます。

○自七歳至十歳男女並に幼稚園、七巧板箴之は本會の考案で、餘程甘いものが出來たと思ふ、一枚の正方形を七ツに切り種々の形の板となし、之を種々に排べて不思議に面白い形が澤山出來る、此の板は昔からあつて、本紙にも一度説明を出したと思ふが今度の工夫は之を應用して種々の形を板に掘り抜いたのであります、故に唯だ其の凹所に七枚の板を入れ、ばよいのである、昔の圖形丈け見てやるよりは餘程やさしく出來ます、新な圖形も工夫して入れてあります、推理方を養成するに効がありますから可成初め教へないがよいと思ひます。

因に記す、リングベルス、七巧板箴及び六色圓板は本會の工夫に成りしものであります、本會も萬事稍々整頓しましたから以後も可成新工夫のものを出す積りであります、讀者諸賢も御

考へ付のものもありませんれば、斯界の爲め御通報を願ひます。尙ほ六色圓板、七巧板箴は幼稚園などにも頗る適當な材料だと思ひます。

家庭と育兒

原胤昭氏談

▲三歳兒の魂 昔から「三歳兒の魂百迄」と云ひ「梅檀は嫩葉より馨ばし」といふが赤兒が生れて三歳の時に斯くの如き馨ばしき聲を揚げたならば必ず其兒は成功する圓滿なる生涯を送ることを得る人間の頭腦は生れて三四歳の時に固まるもので馨ばしい子供は穩健家庭に育つたからである、凡そ物を盗むやうな兒は既に三つ四つ時から盗み根性があるもので漸くチヨロ／＼歩きする頃にお客様の風呂敷包の中を覗いたり或は包を開いて何か盗まうとする性質があるとは犯罪人の經歷が常に説く所である更に兒童の周圍に就て研究して見ると繼母の手に育たれたとか或は兩親を失つて不幸の兒に此種の者が多い平生食物に不足を告

ける所から菓子の一つも盗み食ひしやうといふ境
遇裡に人となるので其兒の生涯は惑むべき犯罪人
を以て終るのである。

▲兩親の罪 世間に三人四人子供のある中で一人
不良の少年が生れることがある親は立派な地位あ
り名望ある人で斯の如き例は世間に幾らもある結
果だけ見ると如何にも不思議であるが是は決して
不思議でない其兒の生れた時に溯つて探究して見
ると左様いふ悪い兒が生れて來ねばならぬ周囲の
事情があるからで無論兩親の罪である現在の境遇
から見ると不思議といふのも其親の過去と其兒の
三歳四歳よりの成長時代とを照會して見ると判然
と分明して來るそれと共に不良少年に依つて双新
の歴史が明かに證據立てられる。

▲兒童の不幸 男子が妻帯するのは生計の裕な
る時で最も順境にある日である家庭は圓滿である
第一第二の小兒が生れて三歳四歳といふ時は恩愛
の手に育てられて幸福を夢みつゝあるも父親が或
年齢に達して功名に馳する所から新事業を企て、
夫れが不幸にも失敗に終る非常なる苦痛と困難と

を感ずる從つて邪念を萌す不健全なる精神状態に
陥る此際に長じて三四歳に達した第三の兒童は實
に不幸である其後父ある人の生活の漸く復期
に向いて來て富裕の身分となり思想漸く順正なる
時に第四の子供が生れて三四歳になる第四の子供
は又善良に育つのである家庭の不和は貧富に限ら
ず父親が大酒とか不品行とか或は妻の嫉妬心等が
孰れも圓滿なる家庭波風を立たせるのである等が
接に兒童の頭腦構成に其結果を及ぼすのであるか
ら人の親たるものは此點に注意を怠つてはならぬ
(日々)



フレールベル會出版目錄

幼兒談話材料

定價 金四拾錢
 會員特價 金參拾錢
 郵稅 金四錢

幼稚園遊戲

定價 金四拾錢
 會員特價 金參拾錢
 郵稅 金四錢

幼兒教育法

定價 金壹圓
 會員 割引
 郵稅 金拾錢

幼稚園遊戲的手工圖形

定價 金五拾錢
 會員特價 金四拾四錢
 郵稅 金六錢

東京女子高等師範學校內
 フレールベル會

幼稚園事業に滿腔の興味を持つる商店ありや

幼稚園の恩物材料を眞に研究せる商店ありや

幼稚園の教材をフレールベル氏撰定のもの以外に見出さんと焦慮せる商店ありや

幼稚園の恩物材料を家庭に用ゐしめんと勤めつゝある商店ありや

恩物材料は高價いものてふ格言を破らんと努力せる商店ありや

曰く、九段中坂上に

フレールベル館あり

振替口座一九六四〇



各女學校御用

美術造花材料一式

半製品及鋸打拔類

摘細工材料

絹縮緬及金銀モール
寫真臺紙柱掛

瓶細工材料

刺繡用絲及針

東京市本郷區眞砂町十五番地

卸小賣 百花堂 木村喜兵衛

●地方御注文ハ代金引替ニテ郵送ス營業目錄御報次第郵送ス

明治四十二年十月一日印刷
明治四十二年十月五日發行

編輯兼東京市小石川區竹早町七二
發行者 和田持直 印刷者

東京市本所區番場町四番地
片岡武市

發行所 フレール會